

仙台市富沢駅西土地区画整理スタート

市内最大級72畝、造成工に本格着手

仙台市富沢駅西土地区画整理組合(本多善昭理事長)が進める「仙台市富沢駅西土地区画整理事業」の造成等工事が本格着工を迎え1日、請負者のフジタ主催による安全祈願祭が現地(仙台市太白区富沢寺城21)で開かれた。同組合や仙台市、業務代行者のフジタ・オオバから関係者106人が参列し、鉄入れなどを行い工事の安全を祈願した。

式典で同組合の本多理事長は「事業が無事故無災害で完成することを祈念するとともに、良いまちづくりが行われることを願う」とあいさつ。フジタの上田卓司社長は「当社のまちづくりのノウハウを結集し、関係者のまちづくりに対する熱い思いを受け止め工事を進める」と決意を語った。

同事業は、施行区域面積72畝、関係地権者約290人による仙台市内最大級の土地区画整理事業。造成後、住宅(一戸

業務代行はフジタ・オオバ

建(の)ほか、商業施設、年8月〜20年3月、医療福祉関連施設を整備する計画。2年後に開通する仙台市営地下鉄東西線富沢駅から施行区域中心部が1・5キロ好立地で、仙台市が目標とする機能集約型市街地形成に資すると期待される。同組合は、9月27日にフジタと業務代行契約を締結。フジタが造成工事と組合事務局の運営、オオバが調査設計業務を担当する。事業期間は13



円。中村仁之所長(フジタ)の話



「資材、労務の状況を見ながら、盛り土、排水、道路の各工事を調整して効率的に行い、工期内に無事故無災害での完成を目指す」。

右から鎌を入れる辻本茂才オバ社長、鉄を入れる本多理事長(右)と相沢清志仙台市都市整備局次長、鋤を入れる上田フジタ社長